

平成24年度

# 「蛍流の森」点描



稀少な生き物も生息する蛍流の森

ーロックエンゼルの会ー

# 1、石清水の活用

井戸がない、配水場の貯水能力は2日分という町内の現状から非常用飲料水の確保は大きな課題でした。こうした事情から、町内会役員や有志は蛍流公園奥の山中に入り、何度も石清水の探索を行いました。そして、平成15年の夏に水源を発見することができました。

以後、有志によってロックエンゼルの会を発足する運びとなり、高齢者の組織「清流の会」と共同してパイプを水汲み場まで敷設しました。こうして、日常の管理や水質検査を受けるなどの活動に取り組んで今日に至っています。

平成15年10月 岡崎市環境調査センターに水質鑑定を依頼。

平成15年11月 町内に「石清水発見」を知らせる回覧発。

平成16年 2月 甘口日本酒「ロックエンゼル」の仕込みを開始。

以後、毎年1回の仕込を継続中（石清水を酒蔵に持込む）

平成20年 3月 岡崎市より「岡崎市民環境目標」を認定。

平成21年11月 里山整備事業説明会開催

平成22年 3月 町内会総会の場で「蛍流の森」整備事業に参加を報告

平成23年～毎月1回以上の蛍流の森整備保全活動を継続中



毎分5リットルあまりの石清水水汲み場  
(約190メートル奥の山中に湧き出し、パイプで導水)

## 2、「ホタルの里」の造成と水生昆虫

町内の元副総代でもあった故山本康政さんの命をかけた尽力によって、現在地に「ホタルの里」を造成できたのは平成15年。以後、河合中学校や古田先生のご指導を得て、毎年6月にはホタルが舞う里になってきました。



ホタルの里に咲くアジサイ



新たに造成した石清水の池

また、水生昆虫の生息調査によって里内に造成した池や小川には稀少な生き物が育っていることが分かりました。以下、そのいくつかを資料によって説明をします。

### 稀少生物が生息

#### ツチハンミョウ

ツチハンミョウ（土斑猫）は、コウチュウ目（鞘翅目）・ツチハンミョウ科（Meloidae）に属する昆虫の総称です。有毒昆虫としても知られています。

触ると死んだふりをし、この時に脚の関節から黄色い液体を分泌します。この液には毒成分が含まれ、弱い皮膚につけば水膨れを生じたりもします。



ツチハンミョウ



ゲンゴロウ

#### ゲンゴロウ

ゲンゴロウ（源五郎）は昆虫綱コウチュウ目オサムシ上科に属する水生の数科にまたがるゲンゴロウ類の総称です。

日本では水田が身近であり、そこに住む種は昔から親しまれてきましたが、近年水田の農地改良による餌になる生物の減少や、護岸工事により幼虫が蛹になれないこと、農薬、水質汚染、ため池におけるブラックバスの無差別放流などで数を減らしている種が目立ちます。準絶滅危惧種に指定されています。

### 3、仰天の沢と周辺低地の生き物

石清水の水源から下方は、以前から稲の栽培が行われていましたが、昭和30年代以降の高度経済成長下、稲の栽培は行われなくなって、田んぼに代わって登場したのが杉の木の植林でした。これによって人工林が密集し、種々の事情から間伐も殆んど行われなかったため樹木の成長と共に日照が悪くなり湿地に変わってきました。

整備事業で造られた「ウッドデッキ」周辺には常時水が溜まり、湿地には稀少な水生生物が格好の場所として生息しています。そのいくつかを紹介します。

#### ギフチョウ

ギフチョウ（岐阜蝶・学名 *Luehdorfia japonica*）は、チョウ目・アゲハチョウ科・ウスバアゲハ亜科に分類されるチョウの一種です。日本の本州の里山に生息するチョウで、成虫は春に発生しますが、近年では里山の放棄や開発などで個体数が減ってきています。

下草の少ない落葉広葉樹林に生息し、成虫は年に1度だけ、3月下旬-6月中旬に発生します。ただし発生時期はその年の残雪の量に左右され、カタクリなどの花の蜜を吸います。

幼虫の食草はウマノスズクサ科カンアオイ属で、その意味でも蛍流の森に成育するカンアオイを大事に保護していきたいものです。



ギフチョウ

#### オオムラサキ

オオムラサキは、チョウ目（鱗翅目）・タテハチョウ科に分類されるチョウの一種で、日本の国蝶です。

北海道から九州まで日本各地に分布しています。国内では生息環境が限られ、適度に管理された、やや規模の大きな雑木林を好んで生息する傾向が強いようです。

成虫は年に1回だけ6~7月に発生し、8月にも生き残った成虫を見かけます。花の蜜は吸わず、クヌギやコナラといった広葉樹の樹液などに集まりますが、その生態は勇ましく、スズメバチなど他の昆虫を羽で蹴散らしながら樹液を吸う姿を見ます。

幼虫の食樹はエノキやエゾエノキです。ホタルの里内にも植生が見られます。



オオムラサキのオス



オオムラサキのメス

## カメムシ

カメムシ（椿象、亀虫）は、カメムシ目（半翅目）・カメムシ亜目（異翅亜目）に属する昆虫のうち、カメムシ科など陸生昆虫の総称です。悪臭を放つことで知られます。そこから「クサムシ」や「屁こき虫」という俗称があります。

全体はおおよそ五角形の底を引き伸ばしたような形で、背中が平らで、甲羅に覆われた外観が亀を思わせるところから、カメムシの名が付いたといわれています。

敵の攻撃など、外部からの刺激を受けると液が分泌され、捕食者に対しての防御であると考えられています。植食性のものが多く、葉や茎、果実などに口を差し込み、液を吸収します。他の昆虫などを餌にする肉食性のものもあります。**繁殖させたくない昆虫です。**



カメムシ



ヒメタイコウチ

## ヒメタイコウチ

ヒメタイコウチ（姫太鼓打、*Nepa hoffmanni*）は、カメムシ目タイコウチ科に属する昆虫の一種で、生態や分布域に謎が多く、比較的珍しいとされています。

湿地や浅い水域に生息し、体長20mmほどです。肉食性で主に昆虫、節足動物を捕らえ、口針から消化液を送り込み溶けた肉質を吸入する体外消化を行っています。12月頃に陸地の土中や枯葉の下などで越冬します。産卵期は4～6月。メスは水辺の土、苔に数個の呼吸糸を持つ卵を産む。孵化した幼虫は5回の脱皮を行い成虫となりますが、これも繁殖させたくない昆虫です。

## アサヒナカワトンボ

朝比奈川トンボの成虫出現期は4月中旬～8月中旬です。成虫の体長40mm強から60mm弱、幼虫は体長20mm強～30mm。河川上流部や山地の細流に生息し、広く各地で見られます。

成虫の体は金緑色で、成熟したオスは体に白粉を生じる。



オス



メス

## タカネトンボ

タカネトンボ（高嶺蜻蛉、学名 *Somatochlora uchidai*）はエゾトンボ科のトンボの一種で、国内では北海道、本州、四国、九州に産します。和名は高嶺であるが、必ずしも高地でなければ見られないわけではなく、むしろエゾトンボの仲間では最も普通に見られる種です。

成虫は体長52～62mm程の細身のトンボで、体型はヤンマ科に近い。複眼は鮮やかな金緑色に輝き、胸部も金属光沢を帯びた緑色です。

成虫は6月上旬頃から羽化が始まり、10月下旬頃まで見られます。薄暗い環境を好み、丘陵地から低山地にかけての、周囲を樹林に囲まれた閉鎖的で小規模な池沼などに多いようです。羽化後は水域から少し離れた樹林で摂食活動を行います。あまり止まることなく飛び続けていることが多い。成熟した雄は縄張りを持ち、時折ホバリングをしながら水域の周囲を旋回する。暗い場所に向かって行く習性があり、しばしば窓を開放したままの民家に侵入することがあります。産卵は雌が単独で行う打水産卵で、幼虫は成長が遅く、成虫になるまで2年以上を要します。



タカネトンボ

## アサギマダラ

アサギマダラ（浅葱斑、学名：*Parantica sita*）は、チョウ目タテハチョウ科マダラチョウ亜科に分類されるチョウの1種です。翅の模様が鮮やかな大型のチョウで、長距離を移動します。

アゲハチョウ科の様に細かく羽ばたかずにふわふわと飛翔し、また、人をあまり恐れずよく目にするため最近は特に人気が高いようです。

日本全土から朝鮮半島、中国、台湾、ヒマラヤ山脈まで広く分布しています。標高の高い山地に多く生息しています。九州以北で成虫が見られるのは5月から10月くらいまでですが、南西諸島では逆に秋から冬にかけて見られる。アサギマダラの成虫は1年のうちに、日本本土と南西諸島・台湾の間を往復していることが知られていて、渡りの蝶としても知られています。1日あたり200 km以上の距離を移動した例もあります。ホテルの里では、昨年千町からフジバカマを移植し、アサギマダラの飛来を待っています。



アサギマダラ

## 4、蛍流の森の野鳥

岡崎野鳥の会員でもある田中さんが、この1年を通して「蛍流の森」で実際に目にした野鳥を紹介します。

「これは、私自身が森で見た野鳥たちです。実際にはもっと多くいるのかも  
しれませんが、そうであれば嬉しい」  
と、田中さん。

## 冬に見られる野鳥

### 1年中見られる野鳥

トビ・キジバト・アオゲラ・コゲラ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・ウグイス・  
エナガ・ヤマガラ・シジュウカラ・メジロ・ホオジロ・カワラヒワ・スズメ・  
ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス・コジュケイ

### 漂鳥

ハイタカ・ノスリ・ハクセキレイ・モズ・ルリビタキ・アオジ・カケス

### わたり鳥 (冬鳥)

ジョウビタキ・シロハラ・ツグミ・カシラダカ



ジョウビタキ



ノスリ

## 夏に見られる野鳥

### 1年中見られる野鳥

キジバト・アオゲラ・コゲラ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・ウグイス・エナ  
ガ・ヤマガラ・シジュウカラ・メジロ・スズメ・ハシボソ  
ガラス・ハシブトガラス・コジュケイ

### 渡り鳥 (夏鳥)

キビタキ・ホトトギス・サンショウクイ・ツバメ・センダイムシクイ・ヤブ  
サメ



サンショウクイ



ヤブサメ

貴重な調査結果のご提供有難うございました。このことが契機で、さらに詳細な野鳥観察につながっていけば幸いです。

## 5、蛍流の森の樹木と山野草

(これらは、今後の調査を待つこととなります)

- (1) 南の森
- (2) 仰天の沢・沢の森
- (3) 北の森



